

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	婦人科悪性腫瘍術後患者への大建中湯投与による腸閉塞予防効果			
2. 対象患者	以下の期間において、当院で子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌で根治手術を受けた方			
3. 対象となる期間	2004年 1月 1日 ~ 2018年 12月 31日			
4. 実施診療科等	産科婦人科			
5. 研究責任者	氏名	横山良仁	所属	大学院医学研究科産科婦人科学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし			
7. 研究の意義	消化器外科手術等で証明されています大建中湯の腸閉塞の予防効果が、婦人科悪性腫瘍手術でも証明されれば、患者さんの術後の生活の質向上に貢献します。			
8. 研究の目的	婦人科のがんの手術は、骨盤の中にあるリンパ節を切って取り除くことが特徴です。骨盤の中のリンパ節は広く分布しているため切る範囲が広がります。そうすると骨盤の中のリンパ節を切った部分と腸が癒着する可能性が出てきます。腸が癒着しますとガスや便の通りが悪くなることがあります。ガスや便が腸の中で詰まってしまうことを腸閉塞と言います。そのため婦人科のがんの手術の後は腸閉塞を常に念頭におく必要があります。大建中湯は、外科で腸を切った際に腸の運動を促して癒着を防ぎ腸閉塞を減少させたことが証明されています。そこで癒着を防止しえる大建中湯を婦人科がんの手術に用いることで手術後の腸閉塞を減少できるのではないかと期待できます。婦人科がんの手術の後に大建中湯を服用した場合、術後に腸閉塞がどのくらい起こったのか、腸閉塞が起こった場合どのような治療をしたか、腸閉塞がいつ起こったかを診療録等を調べて検討します。			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合の方法等)	診療録と講座保存の総括用紙を用いて次の3群に分けて手術の後の腸閉塞の発症の有無を検討します。2004年から2006年まで手術後に浣腸または緩下剤を用いた152名(A群)、2007年から2009年まで手術中癒着防止材を使用した188名(B群)、2010年から2018年まで手術中癒着防止材と手術後に大建中湯を内服した562名(C群)のA群、B群、C群での腸閉塞の発生頻度、腸閉塞の治療方法、腸閉塞の発症時期を比較します。			
10. 個人情報の保護	研究開始前に本研究の情報を、弘前大学医学部附属病院のホームページ上で公開し、研究対象者が参加することを拒否できるようにします。診療録の情報は全て匿名化され個人が特定されることはありません。集められた情報は産科婦人科学講座内で厳重に保管されます。			
11. 利益相反に関する状況	本研究に伴う経費が発生した場合には、産科婦人科学講座の研究グループの研究費を用います。本研究の実施や報告の際に金銭的な利益やそれ以外の個人的な利益のためにその専門的な判断を曲げるようなことはなく、また研究責任者、共同研究者との間に雇用関係並びに親族や師弟関係等の個人的な関係は有していません。			
12. 連絡先	大学院医学研究科産科婦人科学講座 横山良仁			
	電話	0172-39-5107	FAX	0172-37-6842